

第60回 北海道医学会市民公開シンポジウム

献体と共にあゆむ医学の進歩

AMED優れた医療機器の創出に係る産業振興拠点強化事業 採択

2025年

11月1日(土)

13:00～15:00

参加無料 200名

会場：北海道大学医学部学友会館「フラテ」
札幌市北区北15条西7丁目(北大医学部内)

申込受付 2025年9月16日(火)～10月29日(水)

※下記URLまたは右二次元コードから事前登録を行なってください。

<https://forms.gle/yB8KQwW1YoDbc1Pi7>



【第1部】 シンポジウム



司会

松本 裕子

医療キャスター/株式会社WELlyou 代表取締役

趣旨説明

北海道大学病院 先端医療技術教育研究開発センター

七戸 俊明

解剖をめぐる日本の倫理的・法的・社会的課題の変遷

佛教大学 社会学部

香西 豊子

わが国の医科大学の教育研究における献体利用の現状と将来

東京慈恵会医科大学

小林 英司

解剖学教育の現状と将来

北海道大学 大学院医学研究院解剖発生学教室

山崎 美和子

ご献体により学ばせていただく外傷手術 C-BESTの取り組み

北海道大学 大学院医学研究院消化器外科学教室Ⅱ

村上 壮一

北海道大学白菊会が望むこと

北海道大学 白菊会

渡辺 雅彦

【第2部】 パネルディスカッション

ファシリテーター：七戸 俊明、松本 裕子

パネリスト：第1部シンポジスト+北海道新聞社 岩本 進

テーマ 『誰かの未来のために出来ること～"献体"が支える医学と私たちの選択』

●主催：北海道医学会 (<https://www.hokkaido-med-society.org/meeting.html>)

●後援：北海道、札幌市

●お問い合わせ：北海道医学会事務局 (札幌市北区北15条西7丁目)

TEL 011-706-5007 (直通)

Email: digakkai@med.hokudai.ac.jp

献体と共にあゆむ医学の進歩

日本の解剖学教育は、これまで篤志献体によって支えられてきました。近年では、その活用は医学生教育にとどまらず、手術トレーニング(CST)や医療機器開発(R&D)など臨床医学分野にも広がっています。こうした中、献体は「究極の患者・市民参画(Patient and Public Involvement:PPI)」にとらえることもできます。

本シンポジウムでは、臨床医学の進歩における献体の新たな役割を市民と共有し、献体者およびそのご遺族の思いに社会と医学界が真摯に向き合う重要性を確認する場としたいと考えています。そして、臨床解剖の将来のあり方について、専門家と市民が双方向の対話を通じて共に考え、広く市民の理解と支援の深化を目指したいと考えております。

(企画:七戸俊明)

講演内容

1. 解剖をめぐる日本の倫理的・法的・社会的課題の変遷

…香西 豊子先生

日本で人体解剖は、江戸時代の半ばからおこなわれてきました。ただし、誰の遺体を、どのような要件のもとで解剖するかは、現代に至るまでに、さまざまに変転します。本報告では、その変遷を3つの観点(医療者の倫理、法制度、社会の価値観)から整理し、遺体を用いた研究の現在地について考察します。

2. わが国の医科大学の教育研究における献体利用の現状と将来

…小林 英司先生

わが国には80を超える医科大学がありますが、その使命は医学に対する教育、研究、そして実際に患者さんの治療を行う臨床という3本柱です。献体は医学生の解剖学という基礎医学教育の要ですが、大学卒業後の医師への臨床医学教育及び研究に必須のものとなっています。医科大学における基礎と臨床の連携を促進し、高度な手術訓練、新しい手術手技や機械開発に貢献してきた献体の現状を述べた上で皆さんと将来を語りたいと思います。

3. 解剖学教育の現状と将来

…山崎 美和子先生

解剖学実習は、複雑な人体構造を理解するとともに、生命の尊厳や医療者としての倫理意識について考える貴重な機会でもあります。本講演では、実習前後における学生の学習姿勢や倫理意識、人体や医学への理解・考え方の変化を紹介し、今後の解剖学教育のあり方を展望します。

4. ご献体により学ばせていただく外傷手術 C-BESTの取り組み

…村上 壮一先生

交通事故の減少などにより、重症外傷の手術件数は年々減少しています。これは社会にとって望ましい変化である一方で、外傷手術の経験を実臨床で積む機会が減り、外科医の育成に新たな課題をもたらしています。「ゼロにならない重症外傷に対応できる外科医が、ゼロにならないように」—C-BESTは、ご献体により外傷手術を学ばせていただく新しい教育のかたちです。

5. 北海道大学白菊会が望むこと

…渡辺 雅彦先生

解剖学実習で必要となるご遺体の提供が、昭和30年代から篤志献体により行われるようになったことは、長い歴史を持つ世界の医学教育・歯学教育の中では画期的な出来事でした。臨床医学における篤志献体を用いた様々な取り組みも普及しつつある現在、篤志献体が持つ意味や意義について献体者の視点も含めて考えていきたいと思っております。